

北八・天狗岳山行報告

【山行日】 2023年1月 7日(土)～8日(日)

【集 合】 岩舟支所P AM 4:00

【費 用】 マイカー1台 : 20,200円

【メンバー】 CL:鈴木 SL:廣瀬

石澤、小林、福島

1月7日(土) 晴れ 渋の湯登山口から中山峠
経由、東天狗岳・西天狗岳をピストンし黒百合ヒ
ュッテに宿泊

岩舟支所P4:00=渋の湯登山口P7:00/7:30～

黒百合ヒュッテ 9:20/9:30～東天狗岳 10:50/11:00

～西天狗岳 11:20/11:40～天狗岳鞍部 11:50/12:30～黒百合ヒュッテ 13:30

今年の雪山メイン山行として、北八・天狗岳から高見石の周回コースを計画した。



ところが、7日の天気予報は1週間前から悪く、毎日天気予報を確認しやきもきしていたが、前日から好転し晴れマークになった。岩舟支所を4時に出発し圏央道から中央道を走り、諏訪南ICで降り八ヶ岳エコーラインを進み渋の湯に着く。渋の湯で受付を済ませて料金を払い、係の方に駐車場所へ案内された。指定された場所に車を止め、準備をしてトイレを済ませ出発する。渋川沿いに上流に向かって進み、渋御殿湯の前を通り越すと間もなく橋がある。橋のたもとにある登山届箱に登山計画書を入れて

橋を渡り、高見石への道を左にやり過ごし、樹林帯をジグザグに登って行く。シラビソやコマツガの樹林帯の中を登るが、今年は雪が多く木々は真白く雪化粧していた。ツボ足で登って行くが、雪が多くとても歩き易い。傾斜が緩やかになると八方台からのコースと合流し、平坦な場所で休憩し衣服調整を行う。さらに原生林の中を進むと、唐沢鉱泉からの道と合わさる。ここからも鬱蒼としたシラビソの森を登ると平坦になり、森を抜けると視界が開け黒百合平に着く。

黒百合ヒュッテがたたずんでおり、ヒュッテに入って宿泊の受付を済ませる。トイレを借りて余分な荷物を預け、アイゼンを装着したら出発する。ヒュッテから南東に少し行くと中山峠に着き、中山峠は森の中の十字路になっており天狗岳へは右に進む。樹林の中を進み、やがて樹林を抜けてハイマツ帯になり、岩稜に出ると天狗岳が頭を出し始める。





森林限界を超えた岩場から、シラカバやダケカンバの霧氷と雪を纏ったシラビソの原生林が一望のもと広がりとても素晴らしい景観だ。稜線を歩くようになり左側は断崖で、稲子岳南壁や秋に登ったニュウを見ながら注意して進む。

途中風が強くなり、K 林さんが「寒いので1枚着ます」と防寒着を羽織る。風は冷たいが、目出帽を被る程風は強くない。天狗ノ鼻の岩峰を西側から巻き、雪稜に出ると東天狗岳頂上は目前だ。東天狗岳頂上からは、北八ヶ岳の森とは違った

硫黄岳や赤岳の絶景が広がる。根石岳への稜線も真っ白で美しい。風が強いので、記念写真を撮り急いで西天狗岳へ向かう。西天狗岳への鞍部まで下ると、風は弱くなりとても暖かい。鞍部で昼食の予定だったが、予定より時間が早いのでそのまま進み、一登りで西天狗岳頂上に着く。

頂上は多くの登山者で賑わっており、我々も記念写真を撮ったら山頂の一角に陣取り休憩する。頂上は平らで広く、風も弱いのでゆっくり大展望を楽しんだ。赤岳や阿弥陀岳の南八ヶ岳はもちろん、南アルプスから中央アルプス、北側には蓼科山や浅間山等、360度の大大パノラマを存分に楽しんだ。皆さん「こんな素晴らしい天狗岳に登れるなんて感激です！」と喜んで居た。お互いにスマホで写真を撮り合い、大展望を思う存分楽しんでいた。



展望を楽しんだら鞍部まで戻り、ランチタイムとする。お湯を沸かし、カップ麺やスープにパンなどで



空いた腹を満たす。絶景を見ながらのランチに、皆とても満足そう。昼食が済んだら来た道に戻り、黒百合ヒュッテへ向かう。途中、登って来るパーティとの交差で待たされるが、風も弱まり周りの景色を楽しめる。最後の岩場で眺望を楽しみ、シラビソの樹林帯を抜けると中山峠に着き、左に下るとヒュッテに無事到着。受付が済んでいるので、すぐに2階の個室に案内される。部屋で荷物を整理し、少し休んでから下の食堂で反省会が始まる。ビールで乾杯し、H 瀬さん持参の八海

山を飲みながら、雪の天狗岳に登れた喜びで話は尽きないが、夕食の準備の為お開きになる。

5時30分から夕食をいただき、明日に備えて早めに就寝した。

1月8日(日) 快晴 黒百合ヒュッテから中山&高見石小屋経由し渋の湯へ下山

黒百合ヒュッテ 7:20~中山 8:00~高見石小屋 8:40/9:10~渋の湯登山口 P11:00/11:15=

鹿の湯八峯園 11:40/13:00=岩舟支所 P16:05

6時に朝食を食べ、ゆっくり準備をして外に出て、アイゼンを装着し7時20分に出発する。



今日も快晴で風も弱く、絶好の登山日和に皆さんの顔が自然とほころびる。中山峠に向かい、峠から昨日とは反対に左に進み、中山に向かって登って行く。樹林帯の尾根を進むが、シラビソの樹林に雪が積もり雪山登山の気分が高まる。ニューへの分岐を過ぎると急登になり、中山手前の展望所で昨日登った天狗岳の眺望を楽しむ。ここから見る天狗岳は猛々しく、「昨日はあんな凄い山に登ったんだね」と満足そうに見つめていた。すぐ先の中山の山頂は

樹林の中で眺望は無く、山頂の標識の前で記念写真を撮る。少し先に行くと前方が開け、中山展望台に着く。秋にニューから周遊で登り、ここで昼食を食べた場所だ。今日は快晴で、まさに八ヶ岳ブルーの青空に蓼科山や浅間山の白い峰々が際立っていた。展望を楽しみ写真を撮ったら、指導標に従い高見石に向かって降りて行く。少し先で再び樹林帯に入り、雪化粧したシラビソの森を下って行くと高見石小屋に着いた。ザックをデポし小屋の右脇を通り高見石に登るが、アイゼンを付けて大きな岩を登るのは難しい。高見石の上に立つと北側が開け、蓼科山や茶臼山が望めシラビソの森に囲まれた白駒池が俯瞰できる。高見石小屋へ降りて休憩し、ミカンやどら焼きを食べエネルギーを補給する。ここから道標に従って渋の湯へ向かって下るが、しばらく緩やかな道を下ると、その先は明るく開け賽の河原の急降下が始まる。岩ミックスの下りになるが、雪が多いので前回よりもとても歩き易い。途中、景色が良い場所で記念写真を撮るが、前方に雪を纏った



山々が見え誰かが「エ～あの山は何だろう？」と叫ぶ。方角的に中央アルプスから木曾御嶽山が見えるようで、「御嶽山が見えるんだ～」と喜んでた。地蔵仏まで下ると岩が少なくなり、沢沿いに降りて行く。シラビソの樹林帯に入り、岩交じりの歩きにくい道を沢沿いに進み、いくつか小さな橋を渡る。黒百合平への道を左に分けると傾斜がゆるくなり、再び黒百合平からの道に合わさると登山口の橋に出る。

橋を渡って少し下り平らな場所でアイゼンを外す。無事駐車場まで戻り、靴を履きかえ荷物を

整理して温泉に向かって出発する。当初の計画は白樺湖畔の「スズランの湯」へ行く予定だったが、コロナの影響で食堂が休業中の為、鹿の湯八峯園に変更した。

温泉に向かう途中の道路から、南アルプスや霧ヶ峰の山々が見え素晴らしい。「こんなところに住



みたいね」と話しながら、鹿の湯八峯園に着く。温泉で2日間の汗を流し、施設にあるレストランで昼食をいただいた。天ザル蕎麦が目にとまり、K 澤さんが「お蕎麦は手打ちですか？」と聞くと「手打ち蕎麦です」との返事。皆さんが「手打ち蕎麦なら食べたい」と言い、全員で天ザル蕎麦を美味しくいただいた。南側の大きなガラス窓から南アルプスの山々が見え、景色を見ながら美味しい蕎麦と揚げたての天ぷらを堪能し温泉を後にする。帰路は清里経由で国道141号線を北上し、

八千穂高原 IC から中部横断自動車道に入り上信越道を進む。道路にも全く雪が無く上信越道の横川SAに寄ってお土産を買い、岩舟支所に予定より早く帰着出来た。二日間とも好天に恵まれ、雪山登山のセカンドステップを無事終了することが出来た。

